

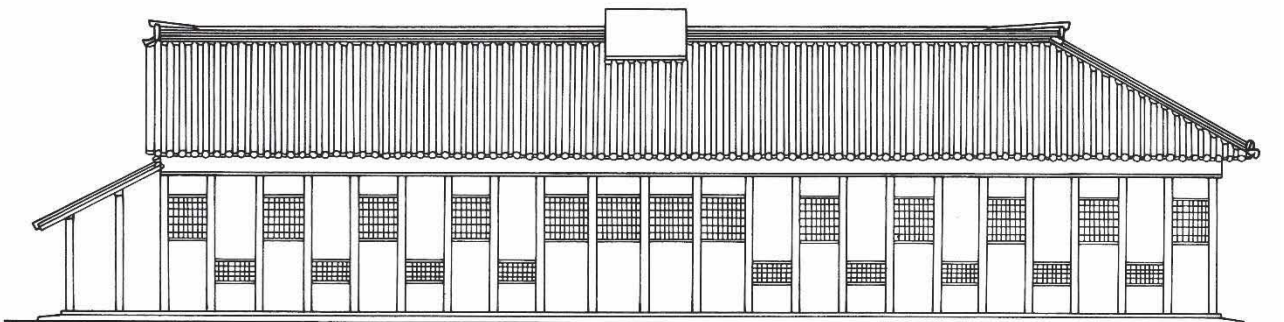
枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館

年

報

令和 5 年度

2 0 2 3



目 次

1. 施設と組織・体制

(1) 施設の概要	1
(2) 展示施設	2
(3) 管理棟（体験工房）	3
(4) 組織・体制	3

2. 事業報告

(1) 展示	4
(2) 普及事業	8

3. 文化財等の調査・収集

(1) 民俗文化財収集整備業務	12
(2) 民俗文化財の保全	19

4. 体験工房

(1) 主催事業	20
(2) 施設利用	25

5. 施設利用・管理

(1) 資料館利用	26
(2) 資料館管理	26

6. 研究報告

資料紹介 菊人形関係資料について	28
------------------------	----

1. 施設と組織・体制

(1) 施設の概要

枚方上之町に所在した田中家は古くから鋳物業に携わり、江戸時代には、全国の鋳物師の大多数を統括していた真継家から鋳物師職許状や大工職許状を受けた鋳物師として、梵鐘、鍋、釜などを鋳造していました。

枚方市は、同家からその鋳物工場と住居の寄付を受け、昭和 49 年から昭和 57 年にかけて現在地に移築復元し、これを機に、田中家の鋳造業の歴史的な位置づけを目的として、鋳造に関する資料を収集し、地域の民俗文化財を合わせて、枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館として整備し、昭和 59 年 10 月に開館しました。

平成 20 年には展示パネルの改修や、鋳造をはじめ工芸や美術の創作活動が体験できる体験工場の整備を実施。平成 28 年 10 月から実施した耐震・改修工事にあわせて鋳物の歴史を伝える展示コーナーをリニューアルし、平成 29 年 10 月に再オープンしました。

歴史的・民俗的視点を切口に鋳造技術を紹介する施設は全国的に見て貴重であり、枚方市民や近隣の人々をはじめ、研究者、鋳造業者など全国から多くの見学者を集め、開館からの入場者数は、343,184 人(令和 5 年 3 月末)となりました。

【資料館のあゆみ】

昭和 48 年 3 月 30 日	田中家住宅鋳物工場が大阪府有形文化財に指定される
昭和 48 年 4 月 7 日	枚方上之町田中宇之松氏から鋳物工場の寄贈を受ける
昭和 49 年から 52 年 3 月	鋳物工場を藤阪天神町に移築・復原する
昭和 50 年 8 月 9 日	枚方上之町田中宇之松氏から主屋の寄贈を受ける
昭和 50 年 8 月 27 日	田中家住宅主屋が大阪府有形文化財に指定される
昭和 54 年から 57 年 3 月	主屋を藤阪天神町に移築・復原する
昭和 59 年 10 月	枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館開館。1 月から 3 月は休館。
平成 7 年 4 月	通年開館を実施。
平成 18 年 4 月から 21 年 3 月	指定管理者制度を導入。公募による指定管理者選定を実施（指定管理者：（財）枚方市文化財研究調査会）
平成 20 年 7 月	体験工房開設及び工場展示パネルリニューアル
平成 21 年 4 月から 26 年 3 月	公募による指定管理者選定を実施（指定管理者：（財）枚方市文化財研究調査会）
平成 26 年 4 月	耐震工事に向けて管理運営を直営で実施
平成 28 年 3 月	入館者数 30 万人を達成
平成 28 年 10 月から 29 年 10 月	耐震・改修工事のため展示施設部分は休館し、体験工房のみ開館する。耐震工事にあわせて工場常設展示を大幅リニューアル、復元竪穴式住居の屋根葺替を実施。
平成 29 年 10 月 3 日	リニューアルオープン

(2) 展示施設

枚方市内で近世以前から鋳物業を営んできた、田中家から寄贈された鋳物工場・主屋を枚方市が移築復原し、昭和 59 年から展示施設として公開・活用しています。

・田中家住宅主屋（大阪府指定有形文化財）

田中家の主屋は、桁行 8 間・梁行 4 間半、屋根は切妻造本瓦葺きの建物で正面に庇を設けています。元文 4 年（1739）に釣鐘を鋳造した時の祈祷札が打たれていたことから、建築年次の下限がわかりますが、建物の形式手法からみて、17 世紀までさかのぼれるものではありません。

建設当初の平面は、整形四間取りでした。土間は表側の部分が仕切られ、「うまや」として使われていたようです。釜屋はそのうしろにあり、煙返しのために梁を低くし、内部の天井は土で塗り込めています。

構造は梁の上に根太天井を渡し、「厨子二階」をつくり、中央棟下の柱間に地棟を渡し、登梁を使用して小屋を組んでいます。平面は全体に農家のものに類似していますが、このような瓦葺きの構法を取ったのは、鋳物師という火を使う職業であったためではないかと思われます。

同家の主屋は、伝統のある鋳物師の住居であるという点、および河内の民家としても、交野市の山添家住宅（重要文化財）に続く時期の特徴を良く残しています。

・田中家住宅鋳物工場（大阪府指定有形文化財）

鋳物工場は、桁行 12 間・梁行 5 間半、屋根は寄棟造本瓦葺きで建築年次は不明ですが、主屋とあまりへだたりのない時期の建築であると思われます。周囲は半間おきに柱がたち、高さを変えて格子窓がつきます。

正面にあたる東側では、南半が格子窓、北半は下地窓を連子風にしています。このように窓が多いのは鋳込み作業の時、室内がかなり高温になるためではないかと思われます。

内部は西側 4 間を身舎にとり、入側は 1 間おきに独立柱がたちます。工場のほぼ中央部にあたる 5・6 間目は柱間がのび（1 間 1.97m に対して 2.2m）、棟下には炉が置かれ、その上に方 1 間の風袋が壁土で塗り込められ、換気の役を果たしていました。炉の背面の 1.5 間×2 間は「たたら場」で二方を厚い土壁でふさぎ、ふいごを置いて溶解を行いました。両側の作業場は土間で砂を敷き、その上に鋳型を置いて鋳込みを行っていました。

以上のように、田中家鋳物工場は、近世の鋳物工場としては全国に例をみない珍しい建築遺構です。

・復元竪穴住居

田口山遺跡で発掘された弥生時代中期の竪穴住居跡をモデルに復元したものです。直径 8 m 50 cm の平面円形の住居で、高さ約 5 m の茅葺屋根です。屋根は平成 29 年 11 月に葺替えています。

・弥生時代の竪穴住居跡

長尾西遺跡で発掘された弥生時代後期の実物の住居跡。方形住居跡の約半分をとどめるだけですが、炭化材が残っていたため、地面から切り取って移設・保存しています。

(3) 管理棟（体験工房）

当館は鋳物の歴史資料館であることから、平成 20 年度に管理棟内に、ものづくりの体験ができる体験工房を開設し、鋳造、七宝、彫金等の主催講座を開催しているほか、講座参加者を中心に結成したサークルが体験工房を利用して、美術・工芸などの創作活動を行っています。

【施設概要】

名称	枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館
所在地	枚方市藤阪天神町 5 番 1 号 (JR 学研都市線藤阪駅徒歩 7 分、京阪バス藤阪徒歩 5 分)
施設内容	① 開 館 昭和 59 年 10 月 3 日 ② 敷地面積 8,114.67 m ² ③ 建築面積 791.26 m ² ④ 延床面積 1,174.01 m ² ⑤ 建築構造・主な施設内容 ・ 鋳物工場(木造平屋) 展示室 ・ 主屋(木造平屋) 陳列棟 部屋 4 室、土間等 ・ 管理棟(鉄骨 2 階) 1 階 収蔵庫、体験工房等 2 階 事務室、収蔵庫、研究室等 ・ 復元竪穴住居

【配置図】



(4) 組織・体制

当館は枚方市観光にぎわい部文化財課所管施設として運営し、館長・係長が文化財課と兼務、学芸員以下が資料館の日常的な管理・運営を行っている。

〔体制〕

観光にぎわい部長	一次長	文化財課長	課長代理兼館長	係長	学芸員(常勤)	1 名
					学芸員(週 4 日)	1 名
					歴史資料整理員(延 36 日)	1 名
					資料館等業務補助員	

2. 事業報告

(1) 展示

①常設展

ア. 工場

枚方の鋳物師田中家旧蔵の鋳造道具や田中家の歴史、現代の枚方で製造されている鋳物製品を展示。

イ. 主屋

枚方市域の民俗文化財を展示。露出展示のため、比較的傷みや劣化に耐える民俗資料で、「枚方のむかしの生活」として展示。小学校の地域学習や歴史学習などに活用されることが多く、子ども向けのワークシートを作成し、見学の便を図った。

主屋の障子張替えを行った。

②企画展（ちょこっと展）

水とくらし

展示期間：令和5年4月22日～令和5年7月9日

土間トーク 5月13日、6月18日

学芸員こぼれ話 7月2日

内 容：枚方に上水道が通水して今年で90年になるため、水道がない時代の、水の利用に関する民具を展示した。

展示資料：陶管、水車、もんどり、水掛け担桶、龍吐水、手桶、釣瓶、水甕、柄杓、足付き湯桶たらい、五右衛門風呂、湯たんぽ、井戸用具、雑魚取り籠、雑魚取り網、かぶせ



展示風景



昔の夏のくらし方

展示期間：令和5年7月22日～令和5年10月9日

土間トーク 8月19日・20日

学芸員こぼれ話 9月10日

内 容：クーラーや扇風機、電気冷蔵庫などがなかった時代の民具を展示し、夏を乗り切るための工夫や知恵を紹介した。

展示資料：素麺箱、氷冷蔵庫、飯籠、麦茶用水筒、下駄、たらい、井戸ばさみ、うちわ、煤払用ほうき、掃除用草履、かぶせ、雑魚取り網、もんどり、手筒花火、蚊帳、長着、浴衣、手拭、下駄



展示風景



冬のくらし

展示期間：令和6年1月20日～令和6年3月24日

土間トーク 1月28日、3月16日

学芸員こぼれ話 3月3日

内 容：冬に使われた暖房具や衣類、保存食づくりや冬の作業に使われた民具を展示した。

展示資料：丸火鉢、手あぶり、ストーブ、改良式こたつ、湯たんぽ、綿入着物、綿入ねんねこ半纏、綱貫、鋤、こまざらえ、たたき台、横鎚、菰編み台、槌の子、棧俵、草履、搗臼、杵、餅切包丁、ほうらく、漬物桶、味噌桶



展示風景



③庭園「河内木綿栽培展示」

資料館で常設展示している機・実繰・紡車と関連づけた説明ができるように、「昔の暮らし」学習に有用な綿を初夏から秋にかけて栽培。

④館外展示

枚方宿まちかど歴史展示 展示期間：令和5年12月1日～令和5年12月17日

枚方宿の複数の店舗で文化財の展示を行い、歴史や文化をより広く知ってもらうとともに、人の流れを創出し地域の活性化を図り、また、枚方宿の歴史についての理解を深めていく目的で、枚方宿まちづくり協議会、枚方文化観光協会（鍵屋資料館）、枚方市（文化財課）の3者共催の展示を行い、そのうち当館は、店舗所蔵の民具6点を展示解説した。

展示風景



阪伏出船時間表
くらわんかギャラリー



わら包装の茶碗
塩熊商店



ちんちよう
枚方凍氷



こうじぶた
北村みそ本家



看板
6 北村みそ本家



大小看板
北村みそ本家

⑤アンケートの実施

入館者にアンケート調査（任意記入）を実施し、総数 74 枚の回答を得た。職員の対応は「よかった」が 90%、展示の内容はいずれも「わかりやすい」が 84%以上を占めた。

令和5年度(5年4月～6年3月)アンケート集計

総回答数 74 枚（重複・未回答あり）

1.年齢

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
人数	19	2	3	10	14	10	11	5	74
率	25.7%	2.7%	4.1%	13.5%	18.9%	13.5%	14.9%	6.8%	100.0%

3.お住まい

	枚方市内	大阪府内	大阪府外	合計
人数	31	27	14	72
率	43.1%	37.5%	19.4%	100.0%

4.誰と一緒に来られましたか

	家族	友人	団体見学	ひとり	その他	合計
人数	33	15	1	25	0	74
率	44.6%	20.3%	1.4%	33.8%	0.0%	100.0%

5.資料館を何で知られましたか

	広報『ひらかた』	ホームページ	人からきいて	通りがかり	ポスター	チラシ	その他	合計
人数	6	9	10	10	0	3	31	69
率	8.7%	13.0%	14.5%	14.5%	0.0%	4.3%	44.9%	100.0%

6.こちらまでの交通手段は何でしたか

	電車	バス	タクシー	自転車	バイク	自家用車	徒歩	合計
人数	14	3	0	12	5	34	9	77
率	18.2%	3.9%	0.0%	15.6%	6.5%	44.2%	11.7%	100.0%

7.職員の対応は適切でしたか

	よかった	ふつう	よくない	合計
人数	64	7	0	71
率	90.1%	9.9%	0.0%	100.0%

8-1.展示内容はいかがでしたか(工場)

	わかりやすい	ふつう	わかりにくい	合計
人数	65	6	0	71
率	91.5%	8.5%	0.0%	100.0%

8-2.展示内容はいかがでしたか(主屋)

	わかりやすい	ふつう	わかりにくい	合計
人数	48	9	0	57
(%)	84.2%	15.8%	0.0%	100.0%

(2) 普及事業

① 寺子屋講座

館内事業として、寺子屋講座と題した各種催しや企画展関連行事などを実施。

講座一覧

講座名	開催日	参加者数 (付添含む)
枚方鋳物師田中家の古文書を読む	5月19日・26日、6月2日・9日	16人
布ぞうり講習会	6月29日	14人
カマドでご飯を炊こう！	7月16日	18人
怪奇？！オバケちょうちんづくり	7月28日～30日	177人
河内素麺の古文書を読む	9月22日・29日、10月6日・13日	23人
カマドでご飯を炊こう！	10月21日	17人
竹かご講習会	11月24日	11人
わらに親しむ～しめ縄づくり～	12月23日	14人
カマドで焼きいも！	1月13日	31人
わらに親しむ～鍋しきづくり～	2月22日	10人
まが玉づくり	3月23日	62人
合計	開催日数 19日	393人

実施風景



6月9日
枚方鋳物師田中家の古文書を読む



6月29日
布ぞうり講習会



7月16日
カマドでご飯を炊こう！



7月28日
怪奇？！オバケちょうちんづくり



10月6日
河内素麺の古文書を読む



10月21日
カマドでご飯を炊こう！



12月23日
わらに親しむ～しめ縄づくり～



1月13日
カマドで焼きいも！



2月22日
わらに親しむ～鍋しきづくり～



3月23日
まが玉づくり

②見学・取材等対応

ア 小学校への対応

(出前講座)

出前授業は地域学習や総合的学習（小学3年生）、歴史学習（小学6年生・中学校1年生）などの学校教育との連携を図るとともに、資料館PRの一環として企画。以下のプログラムを用意し、教員の希望に応じて実施する形態で、今年度は下記小学校で開催した。

- (a)「綿から布へ」 綿の実から糸を紡ぎ小さな布を織る。
 - ・綿の話と糸紡ぎ〔45分〕（綿栽培などについての話と綿から糸を紡ぐ作業の体験）
 - ・簡単はたおり体験〔45分～90分〕（厚紙で作ったハタで、しおりかコースターを織る）
- (b)「古いもの調べ」 民具を使って、枚方の昔の暮らしを説明する。
 - ・『わたしたちのまち枚方』『昔のくらし』の解説
 - ・釜・飯ふご・箱膳・洗濯板などふるい道具を持参
- (c)「糸車実演」 小学1年生の国語教科書「たぬきの糸車」にも登場する糸車（紡車）の実演と、材料の木綿から手で糸を紡ぐ体験
- (d)「枚方の鋳物づくりと昔のくらし」
 - ・鋳物に関する模型や、釣鐘の実物大写真などを用いて、昔の鋳物づくりについて解説。

出前授業

日時	学校名	学年	クラス	児童数	講座内容
6月28日 2～3限	東香里小学校	5年生	1～2組	63人	枚方の鋳物づくりと昔のくらし

10月 5日	2～5限	香里小学校 3年生	1～4組	114人	枚方の鋳物づくりと昔の暮らし
11月 1日	2～4限	船橋小学校 3年生	1～3組	79人	枚方の鋳物づくりと昔の暮らし
1月 16日	3限	桜丘北小学校 3年生	1～2組	42人	古いもの調べ
18日	5～6限	牧野小学校 3年生	1～3組	102人	古いもの調べ
26日	5限	中宮小学校 3年生	1～3組	73人	古いもの調べ
31日	5限	津田小学校 3年生	1～3組	71人	古いもの調べ
2月 5日	5限	香陽小学校 3年生	1～2組	64人	古いもの調べ
3月 6日	3～4限	東香里小学校 5年生	1～2組	63人	藁の道具と縄ない体験
7日	3限	東香里小学校 3年生	1～2組	57人	古いもの調べ
合計		学校数 8校 (10回)	学級数 26 クラス	受講者数 728 人	

(社会見学)

小学校 3 年生の社会科単元「枚方市のようす」、「昔の暮らし」の導入で、社会見学に資料館がよく活用される。理解することが難しくなった昔の生活を実感し、興味を抱くよう学芸員が展示説明を行い、書込式のワークシート「けんがくノート」も配布。

社会見学

実施日	学校名	学年	人数 (引率者数)
5月 30日	香陽小学校	3年生	63 人 (6 人)
6月 8日	津田小学校	3年生	72 人 (6 人)
27日	桜丘北小学校	3年生	42 人 (4 人)
9月 12日	蹉跎東小学校	3年生	74 人 (7 人)
21日	五常小学校	3年生	94 人 (7 人)
26日	樟葉北小学校	3年生	51 人 (5 人)
29日	殿山第一小学校	3年生	63 人 (7 人)
10月 3日	殿山第二小学校	3年生	71 人 (6 人)
5日	伊加賀小学校	3年生	83 人 (6 人)
12日	香里小学校	3年生	108 人 (7 人)
26日	明倫小学校	3年生	38 人 (5 人)
11月 2日	船橋小学校	3年生	79 人 (5 人)
2日	春日小学校	3年生	73 人 (7 人)
8日	磯島小学校	3年生	54 人 (4 人)
14日	枚方第二小学校	3年生	93 人 (6 人)
14日	平野小学校	3年生	89 人 (6 人)

21 日	山田小学校 3 年生	39 人 (4 人)
22 日	開成小学校 3 年生	66 人 (7 人)
28 日	川越小学校 3 年生	28 人 (4 人)
29 日	山之上小学校 3 年生	114 人 (9 人)
1 月 23 日	菅原東小学校 3 年生	66 人 (4 人)
23 日	樟葉西小学校 3 年生	55 人 (4 人)
25 日	菅原東小学校 3 年生	126 人 (9 人)
合計	学校数 22 校	参加者数 1,776 人

下見対応 18 校

イ 博物館実習

8 月 16 日～21 日旧田中家鋳物民俗資料館及び鍵屋資料館で 6 人を受け入れた。

参加者は、大阪芸術大学・京都芸術大学・京都美術工芸大学・広島大学・八洲学園大学・龍谷大学（各 1 人）。

うち、当館では 8 月 16 日～18 日の 3 日間を担当。

16 日 オリエンテーション、展示解説、収蔵庫見学

17 日 二酸化炭素による殺虫作業

資料調書作成実習

18 日 二酸化炭素による殺虫作業経過確認

資料調書作成実習

講評と意見交換

ウ 取材

①読売新聞

令和 5 年 5 月 9 日にちょこっと展「水とくらし」取材、5 月 17 日に掲載された。

②読売新聞

令和 5 年 12 月 23 日に「わらに親しむ～しめ縄づくり～」取材、12 月 24 日に掲載された。

③読売テレビ かんさい情報ネット ten. 「レッツゴー若一調査隊！」

令和 6 年 2 月 22 日・23 日取材、3 月 6 日放送。

④JA バンク大阪会報誌（株式会社パンスール）

令和 6 年 3 月 22 日取材。

エ その他

①関西考古学の日

令和 5 年 9 月 1 日～11 月 30 日に実施された関西考古学の日に参加した。

②関西文化の日

令和 5 年 11 月 1 日～30 日に実施された関西文化の日に参加した。

3. 文化財等の調査・収集

(1) 民俗文化財収集整備業務

①民俗文化財の収集・調査・整備

民俗文化財の収集活動については、資料の状態やその学術的価値、収蔵庫の状況によって判断するため、調査の上で寄贈依頼に対応している。調査では、有形資料の現況確認の他、使用や製作技術といった無形民俗の聞きとりを行っている。

有形民俗文化財収集一覧

実施日	寄贈者	点数	資料
7月16日	個人	1揃	『日本の民話』
3月19日	ひらかた市民菊人形の会	1455点	人形手足等、菊人形下絵等
3月21日	個人	2点	統制陶器
3月22日	個人	1点	8ミリフィルム映写機
3月22日	個人	104点	鑄造用具



日本の民話



統制陶器



8ミリフィルム映写機

菊人形関係資料



下絵



手



足

鑄造用具



ヘラ



エンマ



水準器

民俗文化財調査一覧

実施日	調査地	資料
5月10日	資料館	鋳物の道具
11月16日	甲斐田	甲鉾神社湯釜
11月16日	尊延寺	唐箕・足踏脱穀機・除草機・弾薬箱・斗桶 (寄贈の依頼があり調査)
2月8日	甲斐田	槍・長刀等 (寄贈の依頼があり調査)

②資料調査

- ・津田三宅家文書の調査

民俗調査を実施している津田に伝来した古文書を、市史資料室と目録作成を実施。

- ・田中幸太郎氏撮影写真の調査

市史資料室に寄贈された田中幸太郎氏撮影写真を調査、スキャン作業と目録作成を実施。

③民俗調査等

民俗文化財調査の一環として、令和4年度に実施した神社の祭礼行事のアンケート結果に基づき、神輿、ダンジリ、布団太鼓等の確認調査を行った。

その他、津田の宮座等、聞き取り調査を実施した。

実施日	調査地	内容
4月27日	津田	宮座について聞き取り調査
5月25日	尊延寺	ダンジリ調査
6月21日	茄子作	春日神社ダンジリ調査
7月5日	尊延寺	門松について聞き取り調査
7月13日	穂谷	三之宮神社ダンジリ調査
7月26日	津田	津田の個人宅古文書所在調査 (市史資料室に同行)
9月14日	津田	津田宮座杉植座について聞き取り調査
10月13日	高田	宵宮調査 (ダンジリ)
10月13日	茄子作	春日神社宵宮調査
10月13日	村野	村野神社宵宮調査
10月13日	釈尊寺	村野神社遥拝所宵宮調査
10月14日	尊延寺	巖島神社宵宮調査
10月14日	穂谷	三之宮神社祭礼調査
10月14日	杉	若宮八幡宮宵宮調査
10月14日	茄子作	春日神社本祭調査
10月14日	長尾	菅原神社秋祭り調査

10月14日	船橋	二ノ宮神社献湯祭準備調査
10月14日	中宮	百済王神社宵宮調査
10月14日	牧野	片埜神社宵宮調査
10月15日	中振	蹉跎神社秋祭調査
10月15日	甲斐田	甲鉾神社秋祭調査
10月15日	田口	山田神社秋祭調査
10月15日	南楠葉	南楠葉ダンジリ調査
10月15日	中宮	百済王神社秋祭調査
10月15日	藤阪	菅原神社秋祭調査
10月15日	牧野	片埜神社本宮調査
10月16日	磯島	磯島八幡神社例祭調査
10月17日	楠葉	交野天神社例祭調査
10月19日	御殿山	御殿山神社例祭・ダンジリ調査
10月19日	津田	春日神社宮座神事調査
10月19日	春日	春日神社灯籠調査
10月21日	招提	日置天神社宵宮調査
10月22日	招提	日置天神社本宮・ダンジリ調査
11月8日	津田	宮座横御鏡講について聞き取り調査
11月30日	春日	春日神社ダンジリ調査
2月14日	御殿山	御殿山神社布団太鼓調査
2月14日	船橋	二ノ宮神社太鼓台調査
3月19日	津田	春日神社祭礼について聞き取り調査

ダンジリ等の確認調査の概要

神社名 (地区名)	ダンジリ・太鼓台等	現在の様子	写真
巖島神社	ダンジリ 1 台	境内の倉庫で保管 秋祭り(10/14、15)に倉庫から出して飾り付け	
春日神社 (茄子作)	ダンジリ 1 台	境内のダンジリ小屋で保管 秋祭り(10/13、14)にダンジリ小屋から出して飾り付け	

春日神社 (春日)	ダンジリ 1 台	社務所横の倉庫で保管	
交野天神社	神輿 1 基 ダンジリ (南 楠葉) 1 台	神輿は秋祭り (10/14) に町内を巡 行 南楠葉自治会館の倉庫で保管し ているダンジリは、秋祭り (10/15) に南楠葉町内を巡行	
片埜神社	神輿 1 基	境内の倉庫内で保管 秋祭り (10/14、15) に倉庫内で飾 り付け	
御殿山神社	(かつて) 布 団太鼓 4 町で 1 基ずつ所有	渚本町の布団太鼓は境内の倉庫 で保管 (写真は渚本町の布団太 鼓) 渚元町は未調査、御殿山は近年 解体した。三栗は以前はあった もよう。	
三之宮神社	太鼓台 1 台	拝殿横の倉庫で保管	
菅原神社 (長尾)	太鼓台 1 台	拝殿内で保管	
菅原神社 (藤阪)	太鼓台 1 台 子ども神輿 1 基、子ども樽 神輿 1 基	太鼓台は拝殿に据え置き 秋祭り (10/15) に子ども神輿、子 ども樽神輿が町内を巡行	

二ノ宮神社	太鼓台 1 台	倉庫で保管。12～13 年前に出さなくなった（写真は当時のもの）	
日置天神社	ダンジリ 8 台 日之出町（北町・西町）、南向山町、南町・門口町、北向山町、宇山林町、新屋敷、九十分、中町・横町 太鼓台 1 台	境内のダンジリ小屋で保管 秋祭り (10/21,22) にダンジリ小屋内で飾り付け、曳行する 1 台（南町・門口町(写真)）は小屋前で飾り付け 本宮 (10/22) に南町・門口町のダンジリを招提小まで曳行 太鼓台は倉庫前に出す	
村野神社	布団太鼓 1 台	秋祭り (10/13,14) に拝殿前に設置	
若宮神社	太鼓台 1 台	拝殿内の太鼓部屋で保存 太鼓部屋で保存、春・秋祭には叩ける	
百済王神社	ダンジリ 1 台	境内の倉庫で保管 秋祭り (10/14,15) に境内に出して飾り付け	
(高田)	ダンジリ 1 台	高田公民館向かいのダンジリ小屋で保管 秋祭り (10/13,14) にダンジリ小屋から出して飾り付け	
(釈尊寺)	ダンジリ 1 台	遙拝所のダンジリ小屋に保管 秋祭り (10/13,14) にダンジリ小屋内で飾り付け	

(印田)	布団太鼓 1 台	印田の公民館で保管 秋祭り(10/14,15)にトラックで 運んで村野神社の拝殿裏の境内 で飾り付け	
------	----------	---	---

ダンジリ等以外の祭礼調査の概要

神社名 (地区名)	特徴的な祭礼 行事	現在の様子	写真
春日神社 (茄子作)	神楽 湯立神事	宵宮(10/13)に神社庁の講師 と地元の神楽会による神楽奉 納 本宮(10/14)に境内にて神社 庁の講師による湯立神事	
春日神社 (津田)	提灯献灯 宮座による供 物奉納	宵宮(10/18)本宮(10/19)に各 町から拝殿と本殿前に大提灯 を献灯。南北の辻提灯あり 本宮(10/19)に宮座が供物を 奉納する神事を行う	
交野天神社	巫女舞、湯立 神楽	例祭(10/17)に拝殿にて笠井 社中による巫女舞（扇と鈴、 剣）。境内にて湯立神楽	
片埜神社	巫女舞、湯立 神楽	宵宮(10/14)に神楽殿にて笠 井社中による夜神楽。巫女舞 （扇と鈴、剣） 本宮(10/15)に拝殿内にて巫 女舞（扇と鈴、剣）。境内に て湯立神楽	
甲鉾神社	湯立神楽	例祭(10/15)に境内にて笠井 社中による巫女舞（扇と鈴、 剣）	

二ノ宮神社	献湯祭	10/14 に献湯祭	
山田神社 (田口)	巫女神楽	例祭(10/15)に拝殿内にて笠井社中による巫女舞（扇と鈴、剣）	
百済王神社	神楽、湯立神事	宵宮(10/14)に境内にて神楽会による湯立神事 本宮(10/15)に境内にて湯立神事、神楽奉納	

(2) 民俗文化財の保全

展示等に使用した民具のクリーニングを実施した。

	資料名	受入番号	資料名	受入番号	資料名	受入番号
4月	ひな人形	0-3368	ひな飾用長持	0-3370	ひな飾用蝶足膳	0-3371
	布袋土人形	0-3443	布団太鼓台	1-1781	吊棒付高張提灯	0-3488
	鯨型	0-3490	鯨型	0-3491	よもぎ餅の押型	0-3492
	拍子木	—	箆簀	0-3964	龍笛	0-3967
	譜本	0-3968	譜本	0-3969		
7月	水車	0-0104	水掛け担桶	0-1925	水甕	—
	柄杓	0-2562	井戸用具	0-3702	釣瓶一式	0-3449
	たらい	0-2495	五右衛門風呂	0-1096	龍吐水	0-3392
	手桶	0-3393	足付湯桶	0-3244	湯たんぼ	0-1332
	もんどり	0-0523	もんどり	0-2408	かぶせ	0-0010
	雑魚取籠	0-2027	雑魚取網	0-0007	陶管	—
10月	素麺箱	0-3032	素麺箱	0-3518	冷蔵庫	1-1476
	蓋台付飯籠	0-1947	水筒	0-1673	たらい	0-2496
	井戸用具	0-3702	煤払用ほうき	0-2965	草履	0-1542
	もんどり	0-0523	かぶせ	0-0010	雑魚取籠	0-2027
	びく	0-1173	花火の筒	0-3403	蚊帳	0-2621
	布団	0-1648	ござ枕	0-1744	浴衣	2-0378
	単長着	0-2230	下駄	0-2940	下駄	0-2941
3月	丸火鉢	0-1117	丸火鉢	0-3251	手あぶり	0-2606
	湯たんぼ	0-1332	改良式置こたつ	0-3383	ストーブ	—
	綿入長着	0-2149	綿入ねんねこ	0-1635	綱貫	0-0176
	鍬	0-0246	こまざらえ	0-3105	叩き台	0-0553
	横槌	0-2256	俵編具	0-3130	槌のこ	0-3132
	栈俵	0-1394	藁草履	0-3055	搗臼	0-2970
	杵	0-2202	ほうらく	0-4028	餅切包丁	0-2878
	漬物桶	0-0432	味噌桶	0-2471		

4. 体験工房

(1) 主催事業

①体験工房講座

種別	講座名	開催日	対象	参加人数
鑄造講座	錫のぐい呑みづくり	6月10日	一般	6人
	錫のぐい呑みづくり	7月17日	一般	6人
	親子でつくろう！夏のぴっかぴかメダル	7月22日	小学生 保護者	12人
	錫のぐい呑みづくり	8月26日	一般	6人
	錫のぐい呑みづくり	9月23日	一般	6人
	錫のぐい呑みづくり	10月14日	一般	6人
	青銅の表札・ランプシェード	11月4日・11日 18日・25日、 12月2日・9日	一般	13人
	わくわく！子ども鑄造体験	3月26日	小・中学生	10人
彫金講座	シルバーリング作り	5月27日	一般	9人
	日本の伝統技術を学ぶ	6月17日・24日 7月1日・8日・15日	一般	6人
	シルバーリング作り	10月28日	一般	12人
	日本の伝統技術を学ぶ	1月21日・28日 2月4日・11日 日・18日	一般	10人
七宝講座	「ネコ」をつくる	6月15日	一般	14人
	夏休み！わくわく七宝体験	7月27日	小学生	16人
	6cm×8cmの銅板からつくるオリジナル作品	9月21日	一般	13人
	有線七宝で小花のペンダント	11月17日	一般	12人
	えとの正月飾り	12月14日	一般	16人
	干支額	1月18日	一般	15人
	縁起物	2月15日	一般	16人
	兜	3月22日	一般	16人
バーナーワーク講座	きらきらトンボ玉づくり体験	6月21日	一般	10人
	きらきらガラスのかわいいものづくり	9月6日・13日・20日	一般	9人
	きらきらトンボ玉づくり体験	10月25日	一般	10人

	きらきらガラスのかわいいものづくり	11月29日、12月6日	一般	10人
	きらきらガラスのかわいいものづくり	2月14日・21日・28日	一般	7人
	きらきらガラスのかわいいものづくり	3月13日・20日・27日	一般	9人
ステンドグラス講座	窓辺を彩るウィンドウパネルづくり	10月24日・31日 11月7日・14日・21日	一般	10人

実施風景

【鑄造講座】



6月10日
錫のぐい呑み作り



7月17日
錫のぐい呑みづくり



7月22日
親子でつくろう！
夏のびっかびかメダル



8月26日
錫のぐい呑みづくり



9月23日
錫のぐい呑みづくり



10月14日
錫のぐい呑みづくり



11月4日
青銅の表札と
ランプシェード



11月25日
青銅の表札と
ランプシェード



12月2日
青銅の表札と
ランプシェード



12月9日
青銅の表札と
ランプシェード



3月23日
子ども鑄造

【彫金講座】



5月27日
シルバーリング作り



6月17日
日本の伝統技術を学ぶ



6月24日
日本の伝統技術を学ぶ



7月1日
日本の伝統技術を学ぶ



7月8日
日本の伝統技術を学ぶ



7月15日
日本の伝統技術を学ぶ



10月28日
シルバーリング作り



1月21日
日本の伝統技術を学ぶ



1月28日
日本の伝統技術を学ぶ



2月11日
日本の伝統技術を学ぶ



2月18日
日本の伝統技術を学ぶ

【七宝講座】



6月15日
「ネコ」をつくる



7月27日
夏休み！わくわく七宝体験



9月21日
6 cm×8 cmの銅板からつくる
オリジナル作品



11月17日
有線七宝で
小花のペンダントトップ



12月14日
干支の正月飾り



1月18日
干支額



2月15日
縁起物



3月22日
兜

【バーナーワーク講座】



6月21日
きらきらトンボ玉づくり体験



9月6日
きらきらガラスの
かわいいものづくり



9月13日
きらきらガラスの
かわいいものづくり



9月20日
きらきらガラスの
かわいいものづくり



10月25日
きらきらトンボ玉づくり体験



11月29日
きらきらガラスの
かわいいものづくり



12月6日
きらきらガラスの
かわいいものづくり



2月21日
きらきらガラスの
かわいいものづくり



3月20日
きらきらガラスの
かわいいものづくり



3月27日
きらきらガラスの
かわいいものづくり

【ステンドグラス講座】



10月24日

窓辺を彩るウィンドウパネルづくり



10月31日

窓辺を彩るウィンドウパネルづくり



11月7日

窓辺を彩るウィンドウパネルづくり



11月14日

窓辺を彩るウィンドウパネルづくり



11月21日

窓辺を彩るウィンドウパネルづくり

(2) 施設利用

- ・ 一般利用の貸出では、団体登録・予約の受け付け、インターネット端末での予約管理を実施
- ・ 市民の施設見学や利用に関する問い合わせに適宜対応

令和5年度 体験工房利用内訳

月	公用等利用							一般利用			空き		利用人数		
	コマ数	準備	講座	文化財	資料館	比率	利用割合	コマ数	比率	利用割合	コマ数	比率	大人	子ども	合計
4月	0	0	0	0	0	0%	0%	10	19%	100%	42	81%	33	0	33
5月	4	0	2	0	2	8%	25%	12	23%	75%	36	69%	97	0	97
6月	10	0	8	0	2	19%	43%	13	25%	57%	29	56%	140	0	140
7月	15	0	8	0	7	28%	71%	6	11%	29%	33	61%	199	139	338
8月	5	0	2	3	0	9%	83%	1	2%	17%	48	89%	40	21	61
9月	9	0	8	0	1	17%	75%	3	6%	25%	40	77%	130	0	130
10月	13	0	11	1	1	25%	76%	4	8%	24%	35	67%	182	19	201
11月	14	0	14	0	0	27%	78%	4	8%	22%	34	65%	194	0	194
12月	9	0	7	0	2	19%	75%	3	6%	25%	36	75%	129	10	139
1月	5	0	0	0	5	11%	45%	6	13%	55%	35	76%	86	20	106
2月	11	0	11	0	0	22%	69%	5	10%	31%	34	68%	139	2	141
3月	8	0	4	0	4	15%	67%	4	7%	33%	42	78%	129	53	182
合計	103	0	75	4	24	17%	59%	71	11%	41%	444	72%	1498	264	1762

5. 施設利用・管理

(1) 資料館利用

①入館者数

令和5年度 入館者数

月	開館日数	個人		団体			体験工房				合計人数
		大人	子ども	団体数	大人	子ども	利用コマ数	利用率	大人	子ども	
4月	26	160	56	3	76	0	10	19%	33	0	325
5月	26	155	25	3	40	63	16	31%	97	0	380
6月	26	220	35	6	287	114	23	44%	140	0	796
7月	27	154	80	0	0	0	21	39%	199	139	572
8月	27	162	45	0	0	0	6	11%	40	21	268
9月	26	93	21	4	26	282	12	23%	130	0	552
10月	26	136	23	7	80	300	17	33%	182	19	740
11月	26	164	29	10	61	641	18	35%	194	0	1089
12月	24	121	31	2	53	0	12	25%	129	10	344
1月	23	239	72	4	17	247	11	24%	86	20	681
2月	25	149	41	0	0	0	16	32%	139	2	331
3月	27	424	82	1	11	0	12	22%	129	53	699
合計	309	2177	540	40	651	1647	174	28%	1498	264	6777

*開館（昭和59年）からの累積入館者数 349,961人（令和6年3月末現在）

(2) 資料館管理

①委託による実施

- ・管理棟の玄関・通用口・体験工房出入口自動ドアの保守点検
- ・管理棟空調設備の保守点検
- ・庭園樹木・芝生の管理
- ・鋳物工場・主屋の虫害防除処理（主屋床下・中二階天井竹部・屋根裏竹部、工場外側木部）
- ・東側隣接斜面及び南側道路隣接地の除草
- ・消防設備点検
- ・電気施設の保守点検
- ・機械警備及び巡回警備
- ・管理棟トイレの日常清掃及び管理棟の定期清掃
- ・監視員による日常業務として館内を監視し、見学者の事故などを防止するとともに、館内や庭園の散水・除草などの日常的な清掃を実施
- ・体験工房から排出する塵芥の排出・処理
- ・体験工房の窯等設備点検

②職員による実施

- ・敷地内の雑木の枝払いを実施
- ・資料館施設及び施設内の設備・展示ケース・展示資料の補修・清掃、庭園の保守・管理などを適宜実施
- ・その他、火の始末・施錠など資料館施設に関わる一般管理業務を実施

③ 修繕

- ・ 正門の修繕
- ・ 管理棟照明器具修理
- ・ 管理棟水道管の補修・交換
- ・ 管理棟滑車撤去
- ・ 鋳物工場にエアコン設置

6. 研究報告

資料紹介 菊人形関係資料について

枚方と菊人形

菊人形は、菊の花でつくられた衣装をつけた人形で、複数の場面構成で芝居の名場面などを表現するものである。文化年間、江戸の植木屋によってはじめられた菊細工の見世物をその起源とし、明治時代に興業化したといわれている。(川井ゆう「ここに集う職人の『粋』-ひらかた大菊人形」『まんだ』83号 2005)。

明治43年(1910)、京阪電鉄が秋の行楽の目玉として香里遊園地(現寝屋川市)ではじめられた菊人形展は、大正元年(1912)の第3回から枚方で開催された。以後大正8年から11年は宇治での開催、昭和19年(1944)・20年は戦争のため中止、昭和21年から23年は千里山での開催を除き枚方で開催された。昭和24年からは開催地を枚方と定め、以後「ひらかた大菊人形」として枚方の秋の風物詩として多くの人に親しまれた。昭和39年以降はNHK大河ドラマを題材とすることが多くなり、昭和49年の「勝海舟」は84万人と最高の入場者数となった。しかし、明治から平成まで愛されたひらかた大菊人形は、平成17年(2005)にその幕を閉じた(枚方市地域振興部文化観光課「ひらかた菊人形今昔」 2011)。

ひらかた大菊人形の終了を受けて、平成18年に菊人形づくりを継承する「ひらかた市民菊人形の会」が発足、ひらかた大菊人形で人形師として活躍していた武河重仁氏に指導を受け、人形製作をはじめた。武河氏は自らが製作した人形の頭や手足、菊人形の場面を描いた下絵等多くの資料を保管していたが、のちにひらかた市民菊人形の会が受け継いだ。

令和2年度から文化財課では、ひらかた市民菊人形の会が受け継いだ資料の調査を実施し、その後、頭(かしら)254点、手足等485点、下絵や場面構成の図、パンフレットなど紙資料970点の寄贈を受けた。人形師が頭を製作するにあたり、下絵や場面構成の図を共有していたため、頭や手足以外の資料も多く残されていたことがわかった。場面構成の図にはテーマと場面の名称が記されているため、頭がいつの興行で使われたものか確認する手掛かりとなる。本稿は寄贈を受けた資料の一例を紹介するものである。

菊人形の頭

菊人形の頭は、テーマに応じてその都度つくられている。しかし、頭の製作には大変手間がかかるため、状態の良いものなどは再利用されることがある(中野祥子「菊人形のつくりにかた—菊師・人形師の技術記録—」『鍵屋のにぎわいを今に伝えて—枚方宿・淀川・菊人形—』2022)。頭254点のうち、208点には、裏面に貼紙や直接の書付がなされている。書かれた内容のほとんどは、場面番号と場面名称、人物名などである。ものによっては紙片がいく



写真1 女性の頭(左)と裏面の貼紙

つも貼ってあるものもあり、頭が何度も使用されたことを示している。ここで、頭が再使用されたもののうち、一例として紙片の文字が明確に判読できるものを紹介する。写真1は女性の頭と裏面の貼紙である。左の貼紙「6 まつ たえ」は、平成14年開催の「利家とまつ」の6番目の場面「まつ」に登場するたえという女性の頭であったことを示している。また右の貼紙「9 静の舞 侍女2」は、平成17年開催の「義経」の9番目の場面「静の舞」の侍女の頭として、再度使用されたことがわかる。

頭を再利用するときには、表面を胡粉などで塗りつぶして顔をつくりかえる。例として、男性の頭を挙げる(写真2)。この頭は裏面の貼紙の記載から、平成12年「葵 徳川三代」の2番目の場面「大阪城内の風景」の徳川家康としてつくられた後、平成14年「利家とまつ」の4番目の場面「二人だけの婚約」の前田利家として使用されたものであった。そして、次の使用に向け作りかえている作業の途中であったことがわかる。



写真2 作業途中の男性の頭（左）と貼紙

菊人形の場面構成

菊人形展には、「段返し」と「見流し」という2つの演出方法がある。段返しはせり上がりや廻り舞台によって場面が転換する形の演出で、観客が客席にとどまって見るものである。一方、見流しはいくつもの場面を作ってテーマを表現するもので、観客は各場面を移動しながら見て回るものである。ひらかた大菊人形では昭和35年以降は見流しだけとなり、おおむね30前後の場面で構成される大規模なものであった。当館で保管する資料は、昭和後期以降の新しい時代のものが大半であるため、確認

ることができる場面構成図は、おおむね10前後である。

ここで、平成14年の「利家とまつ」の構成を確認する。この年は表の通り9つの場面で構成されていた。実際の場面構成表には、これに加えて各場面の概要が文章で記されている。このような記録によって先に紹介した2つの頭がこの年に使用されたことを確認できた。

表 平成14年「利家とまつ場面構成」

場面	登場人物
1. 利家とまつ	2体(男1・女1) 利家、まつ
2. 荒子の祭り	6体(男2・女4) 利家、まつ、利昌、たつ、うめ、女性
3. かぶき者	4体(男2・女2) 犬千代、男性、女性2
4. 二人だけの婚約	2体(男1・女1) 利家、まつ
5. 敦盛(あつもり)	4体(男3・女1) 利家、まつ、信長、勝三郎
6. まつ ～わたくしにお任せくださりませ～	7体(女7) まつ、はる、おね、ふく、たえ、なか、お市
7. 本能寺の変	3体(男3) 信長、光秀、蘭丸
8. 醍醐の花見	8体(男3・女5) 利家、まつ、秀吉、秀頼、北政所、加賀、淀、女性
9. 加賀百万石	6体(男2・女4) 利家、まつ、利長、永姫、麻阿、千代保

また、これとは別に各場面の菊人形の姿を描いた絵もある。これはおそらく舞台構成担当者が作成したものであると思われるが、この絵によってどのように人形が配置されるのか、小道具や菊以外の衣装のパーツがどのようなものになるのか、具体的に示される。写真3では、床机に腰かけ、扇を手に持つ利家と、同じ方向を向いて立つまつが描かれる。横の書付には「白たび、羽織ひも、そで口、えり」とあり、菊以外に必要な衣装の部分が示されている。人形師はこれらをもとに、場面にふさわしい頭や手足を作製したのであろうし、菊師もこの図から衣装を作り上げていったと思われる。



写真3 場面1「利家とまつ」の絵

おわりに

本稿で紹介した資料はほんの一部に過ぎない。しかしこれらの資料からひらかた大菊人形は場面を作り上げるため構成を考え、場面のイメージを作り上げ、菊人形が形作られていったことがわかる。

寄贈を受けた資料の中にはひらかた大菊人形の関係資料だけではなく、武河氏が携わっていた、福井県越前市で現在も続いているたけふ菊人形関係のものなども含まれている。紙資料と頭の比較検討や写真との照合など、今後の検討が必要であろう。

(学芸員 吉川邦子)

枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館 年報
令和6年(2024)11月30日
編集・発行 枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館
〒573-0155 枚方市藤阪天神町5番1号
TEL (050) 7105-8097 FAX (072) 858-4665